

# ユニバーサルデザインは誰のため

「バリアフリー」とは、障がいのある方や高齢の方が生活していく上での障壁を取り除き、誰もが暮らしやすい社会環境を整備するという考え方のことで、すでに社会に浸透しています。同様に、「ユニバーサルデザイン」という考え方もよく知られています。障がいのある、年齢や性別、国籍や民族などにかかわらず、誰もが等しく使いやすいように、安全で便利な都市や建物、製品や道具を実現しようとする考え方のことです。

「ユニバーサルデザイン」には、次のような七つの原則があります。①公平な実用性 ②柔軟性 ③簡単に直感的に理解して使える ④感覚的に理解できる情報 ⑤エラーへの対応 ⑥身体的負担の軽減 ⑦利用しやすい大きさと空間」というものです。

ここに挙げられた七つの原則は、ものづくりに携わる人たちにとつて、これまでも常に意識してきた内容であると思います。ただ、障がいのない方にとっては使いやすいものかもしれませんが、障がいのある方や高齢の方にとっては使い

にくいものだったのかもしれない。今では、たくさんの製品や道具が、ユニバーサルデザインの考え方を念頭に置いて作られており、その結果、健常者も、より使いやすく便利になつてきているという恩恵を受けています。

ある研修会で出会った高齢の方が「右手が痺れ握力が落ち、なかなかペットボトルのキャップが開けられず困っていた。」そうです。ところが、ペットボトルのキャップを簡単に開ける用具を購入して使ってみると、「すぐに開けることができ、とても嬉しかった。」と話していました。ペットボトルのキャップは、安全性や衛生面への配慮から、ある程度力で捻らないと開けることができないようになっていました。この製品によつてキャップを開けるといふストレスから解放されたのです。

さらに、このような製品は、障がいのない方にとつても、手や腕をけがした時などに、役に立つのではないかと思えます。バリアフリーやユニバーサルデザインのように、障がい

のある方や高齢の方の暮らしやすさを意識して社会をつくっていくことは、決してその方々だけのためではなく、すべての人にとつて、住みよい社会を構築することにつながるのです。

## 講師紹介

「人権問題講演会」

【日時】 2019年8月26日(月)

午後2時～

【講師】 乾 和彦さん

元徳島県公立学校教員。

在職中から同和問題の解決に取り組み、人権教育の視点から捉えた防災教育にも取り組む。現在は、県県民環境部男女参画・人権課人権啓発推進員として啓発に取り組む。

【演題】(分野)防災と人権(同和問題を含む)

市人権推進課(教育庁舎1階)

☎ 32・2122

FAX 33・3525

Mail:jinkensushin@city.komatsushima-i-tokushima.jp

## 市民文芸 花みずき歌壇 (356) 松並敦子・選

祖父の家の跡地に建ちたるマンションの白壁まばゆし今  
日春彼岸 横須町 三宅 敏恵

目が覚めて今日は何日何曜日咄嗟に分らぬ吾の戸惑い 横須町 福島 夢栄

不登校に、さえなれなくて白靴は通学道路を沈み且つ浮く 横須町 山崎 泰子

忘れえぬ人ら次つき夢にでて夜の明けたれば手を合わせおり 江田町 深田 伴子

桃の枝切りて菜の花を壺に入れ玄關飾り春をたのしむ 赤石町 田原トシ子

一鉢を嫁入りさせてさくら草花の近況聞くと嬉し 田浦町 太田カツミ

寒くても春はそこまで訪れて蜂須賀桜満開のしらせ 坂野町 橋本千代乃

春よこい老いの呼び声届きしかいの一輪に蜂須賀桜 神田瀬町 大西カヲル

吉野川見渡す限り菜の花の黄の海原がつづく堤防 櫛淵町 松下 玉枝

空家なる庭の窪みの水たまり梅は一輪の春を落せり 立江町 湯浅かや子